

第2回日本医療安全学会学術総会

会期： 2016年3月5日(土)～6日(日)
会場： 東京大学本郷キャンパス
ホームページ： <http://jpscscs.org/2ndJPSCS/>

2015年6月

ご挨拶

共同総会長

小野 稔 (東大病院心臓血管外科学教授)



これまで様々な議論が交わされてきましたが、平成27年10月1日から新たな医療事故調査制度が開始されます。それぞれの医療機関には院内調査委員会の設置が義務づけられますが、具体的な運用法などについて模索している施設が多いのではないかと思います。すでに多くの医療機関では、ヒヤリハットを含めてインシデント・アクシデントの収集のための努力と工夫をされてきたものと思います。医療安全報告は義務感が伴う間はなかなか集まりにくいものです。「医療安全は文化である」とよく言われていますが、医療事故防止のためのシステム作りから、院内で働いているすべての職種の人たちが適切なコミュニケーションスキルを身につけられるような環境作りがこれから益々重要になってくると思います。今回の総会において、参加者一人一人が医療安全文化をどのように構築していけばよいのかを真剣に考え、率直に意見を交わすことができる場を生まれることを念願しています。

共同総会長

日本大学歯学部附属歯科病院 前病院長
日本大学教授
白川 哲夫



このたび第2回の学術総会の共同会長を仰せつかりました白川です。歯科からの参画ということになりますが、今後取り組むべき医療安全の課題について、多方面から情報やアドバイスをいただきながらプログラムの立案を進めていきたいと考えています。

これまでにわが国で実施された、医療の安全確保に関するいくつかの施策や啓蒙活動、医療安全セミナー等によって、重大な医療事故の発生を予防するための考え方や方法論が国内の多くの医療機関に普及したことは確かでしょう。しかしながら、マスコミ報道で目にする医療事故には医療過誤が明らかと思えるものが現在も多数あり、それらの現場で熱意を持って医療安全に取り組んできたリスクマネージャーの方々が切歯扼腕する姿が目

浮かびます。

重大な医療事故に至るまでの過程は、しばしばスイスチーズモデルで説明されます。医療者の能力、医療機器の動作、医療環境などをそれぞれ一枚のスイスチーズにたとえた場合、チーズの穴は現場の努力や安全確保への前向きな姿勢によって相当に小さくできますが、逆に馴れ合い的な姿勢や無関心、周囲の声に耳を貸さない専横的な医療者の存在によって拡大します。経費の壁に阻まれて効果的と考えられる改善策を実行に移せないこともあるかもしれません。

今回の学術総会では、ヒューマンファクターからみた医療の質向上のための方策や、職種・職位を越えたシステムティックな医療安全への取り組みなどについて、踏み込んだ議論が行われることを期待しております。

共同総会長

慶應義塾大学看護医療学部教授
藤井 千枝子



医療安全を担う看護師は医療従事者や患者から信頼が厚く、その経験を生かした組織づくりや、活動を日々健闘しているのではないのでしょうか。第1回学術総会では、医療安全に取り組む看護師たちの参加により、活気がありました。前回に続き今回の看護からの報告は、医療安全における看護の体系の土台になるのではないかと思います。本年度も多くの参加により活発な学会となることを期待しています。



衆議院議員
阿部 知子

阿部先生は東大医学部卒業で小児科医。医療・福祉に関する様々な課題を医療政治の立場から超党派で幅広く活動されています。今回は、日本の医療安全政策の長期ビジョンのシンポジストとして講演をいただけます。



(記念講演)

中原のりこ (厚生労働省過労死防止委員会委員)

中原先生は薬剤師で、医師の配偶者の過労死認定を最高裁で和解しました。過労死防止法制定の立役者です。